

【事例 H24-04-17】 栃木県足利市

成人式の啓発事業

20歳を迎える頃は、生活環境の変化など、様々な面で、大きな変化を迎える時期となることから、成人式で啓発物品を配付し、「こころの健康」について意識できる機会とした。成人式での配付物品の一つとして、簡単なエゴグラムも確認できるパンフレットを配付し、封筒が平らだと、そのまま興味を持たれない可能性もあるので、メッセージ入り（「いのち大切に…♥」）のボールペンを併せ入れ、封筒の中身に興味を持てるようにした。

【実施主体】 栃木県足利市

【大綱の分類】 こころの健康づくりを進める

【事業予算】 平成 23 年度 616 千円

【利 点】

青年期を対象とした取り組みができた。

【実施に至るまで】

【背景・必要性・理由の概要・等】

20歳を迎える頃は、生活環境の変化など、様々な面で、大きな変化を迎える時期となる。その結果、今までの生活経験では、解決されにくい問題（課題）に直面することもあり、心身共に大きな影響を受けることになる。元々、青年期は、外見上の成長と内面的な成長のアンバランスさがあり、心身の状況が極めて不安定であり、衝動性のコントロールの困難さや依存等、精神的なバランスの問題が、行動化につながりやすい。その行動化を抑制（調整）し、漠然とした不安感の解決・解消につなげるため、成人式で啓発物品を配付し、「こころの健康」について意識できる機会とした。

【計画を立てる上での工夫・等】

パンフレットの配布については、成人式の実施担当である教育委員会青少年センターの協力を得て、配付が実施できた。

【具体的な内容・実施の過程】

成人式での配付物品の一つとして、簡単なエゴグラムも確認できるパンフレットを配付し、封筒が平らだと、そのまま興味を持たれない可能性もあるので、メッセージ入り（「いのち大切に…♥」）のボールペンを併せ入れ、封筒の中身に興味を持てるようにした。

また、パンフレットの他に、身近な相談窓口のメールアドレスや厚生労働省のサイトの案内等直接的に支援を必要としなくても、自分が必要な時に情報を得られる機会となるようリーフレットで情報提示した。本人だけへの周知でなく、家族と同居している場合は、パンフレットを持ち帰ることでその家族への波及効果もねらい配付した。

【成 果】

具体的な反応は得られていないが、相談のあり方について検討する機会になったと思う。

今後もさまざまな年齢層に向けた啓発活動の方法について検討し、「医療の前の相談の機会」も踏まえた段階を検討していきたい。

【課 題】

成人式所管課を通じて成人式実行委員会との連携

【事業種別】 普及啓発事業

【準備期間・人数】 (不明)

【予防段階】 1次予防

【自治体規模】 人口 156,588 人 (H23. 10. 1 現在) 財政規模 4,845 千万円 (H23 年度一般会計)

【自治体負担率】 なし (地域自殺対策緊急強化基金対応)

【事業対象】 成人式参加者

【支援対象】 青年期

【実施主体・問合せ先】 栃木県足利市役所健康福祉部障がい福祉課障がい支援担当

TEL: 0284-20-2134

E-mail: syogai-f@city.ashikaga.lg.jp

URL : <http://www.city.ashikaga.tochigi.jp/>

【参考資料・文献】

(ア) 足利市の保健事業統計集

(イ) 足利市自立支援 (精神通院) 受給者名簿